

中部圏・北陸圏における広域連携の推進について

近畿・中部・北陸の 3 圏域の結節点という本県の地理的優位性を生かし、本県が滋賀県基本構想で目指す将来の姿を実現するため、関西広域連合を最大限活用するとともに、中部・北陸圏を巡る広域的な社会情勢の変化を踏まえ、より一層、中部・北陸圏との連携の充実・強化を図る必要がある。

このため、「広域行政推進会議」で庁内横断的な検討・調整を図りながら、平成 24 年度に策定した「広域連携推進の指針」に基づき、具体的な連携施策に取り組んでいる。

1. 「広域連携推進の指針」

- (1)趣 旨 中部・北陸圏において広域で取り組む地域間連携の推進の方向性について、その基本的な考え方や、重点的に取り組む分野、施策化の視点等を示すもの
- (2)計画期間 平成 24 年度～平成 26 年度
- (3)概 要 資料 3-1 のとおり

2. 「広域行政推進会議」

- (1)趣 旨 近畿・中部・北陸圏における具体的な連携施策の検討・調整を行う
- (2)体 制 総合政策部長が議長となり、庁内各部局の次長等で構成
- (3)設 置 平成 23 年 1 月～

3. 中部圏・北陸圏における広域連携の取組

- (1)中部圏・北陸圏連携プロジェクト 資料 3-2 のとおり
「広域連携の指針」に沿い、滋賀の未来成長や広域課題の効果的解決を図るため、各部局が一体となって取り組む具体的な連携施策を総括
- (2)地の利を活かした広域行政推進事業 資料 3-3 のとおり
北陸新幹線やリニア中央新幹線計画の進展による国土軸の変化等、本県を取り巻く広域的な社会情勢が変化している中で、この成長機会を取り込み、本県の発展と県内各圏域の振興につなげていくため、中長期的な戦略や施策の検討・研究を実施

【添付資料】

- ・資料 3-1 広域連携推進の指針の概要
- ・資料 3-2 中部圏・北陸圏連携プロジェクト
- ・資料 3-3 地の利を活かした広域行政推進事業 (H26 企画調整課予算事業)

広域連携推進の指針の概要

現状と課題

■現状

○近畿、中部、北陸の3圏域の結節点に位置するという地理的な特性を有し、近隣府県と歴史的・文化的・経済的なつながりが深い。

【近畿圏】

関西広域連合を設立し、「防災」、「医療」、「観光」、「産業」、「環境保全」等の事業を推進するほか、近畿ブロック知事会などに参加している。

【中部・北陸圏】

「日本まんなか共和国」(滋賀・福井・三重・岐阜の4県)で具体的な連携事業に取り組むほか、中部圏知事会などに参加している。

○県基本構想の未来戦略において、

- ・「不安なく楽しく暮らせる滋賀」
- ・「人と自然が楽しく暮らせる美しい滋賀」
- ・「たくましく活力に満ちた滋賀」
- ・「安全・安心な滋賀」

の姿の実現を目指している。

■課題

⇒国が選択と集中による成長を指向するなかにあつて、近畿圏だけではなく、中部・北陸圏においても存在感を高め、社会・経済成長を実現する必要がある。

⇒活動範囲が拡大している住民や企業の安全・安心を確保し、県域を越える広域的課題へ対応する必要がある。

広域連携推進の方向性

☆3圏域の結節点という地の利を活かし、中部・北陸圏において、滋賀県基本構想の未来戦略で描く「4つの滋賀の姿」の実現につながる、近隣府県との連携を推進する

《重点分野》 危機管理、医療、環境、産業、広域交通・物流、観光

【未来戦略で目指す姿】

- たくましく活力に満ちた滋賀

施策化の視点1 滋賀の未来成長につながる

■産業

- 県内企業の成長分野への参入促進や競争力強化、需要の創出
- ・新たなIP・サービス創出環境・機能の強化
- ・中堅・中小企業等の国際競争力の強化
- ・中小企業のモノづくり現場力の向上
- ・地域産業の活性化

■広域交通・物流

- 広域災害の対応、地域間交流の活性化につながる広域インフラ整備や地の利を活かした物流機能の充実
- ・リサイクル確保のための国土軸の複数化
- ・緊急事態に対応するための、県境道路の整備促進
- ・広域観光ルートの形成につながる公共交通や道路ネットワーク整備
- ・地理的優位性を最大限に生かし、高める鉄道インフラ整備
- ・近隣港湾や空港の戦略的な活用が可能な物流ネットワーク形成 など

■観光

- 豊富な観光資源や地の利を活かされたルート設定、発信
- ・歴史的資産を活かした観光ルートの形成強化
- ・公共交通や道路ネットワークの整備を活かした観光ルートの形成
- ・情報発信やプロモーションの強化
- ・教育旅行やイノベーション誘致に向けた情報発信強化

【未来戦略で目指す姿】

- 安全・安心な滋賀
- 不安なく楽しく暮らせる滋賀
- 人と自然が楽しく暮らせる美しい滋賀

施策化の視点2 広域課題の効果的な解決を図る

■危機管理

- 広域災害に対する、住民(企業)の安全・安心
- ・原子力災害に対する、広域的な防災体制を築く
- ・地震災害に対する、広域応援・受援等の実効性を高める
- ・感染症対策に対する早期の情報共有体制構築や、防疫措置の連携、風評被害や社会活動制限等の調整の仕組みを構築

■医療

- 複数機関の「カネリ」による二重・三重のセーフティネットの形成
- ・関西広域連合の広域救急医療連携計画において、将来的に適正な配置・運航および、近隣府県との連携による、二重・三重のセーフティネットの構築が示されている
- ・広域救急医療連携計画に沿って、近隣府県との相互補完体制を構築する

■環境

- 温暖化対策や生態系保全の施策効果の向上
- ・関西で推進している温室効果ガス削減のための広域取組について、中部・北陸圏においても連携を一層拡大する
- ・府県域を跨いで生息する野生鳥獣について、課題を共有し、解決に向けた取組を推進する など

滋賀県基本構想 「住み心地日本一の滋賀」 の実現

広域連携推進の指針

～地の利を活かした広域連携の方向性～

平成 24 年 10 月

滋 賀 県

■ 指針の構成

1 「広域連携推進の指針」について	1
(1) 「広域連携推進の指針」とは	1
(2) 「広域連携推進の指針」の期間	1
(3) 具体的な取組の推進	1
2 指 針（基本的な考え方）	
(1) 滋賀県の広域連携	2
(2) 広域連携の方向性	2
① 中部・北陸圏における連携の推進と重点的に取り組む分野	2
② 連携施策化(企画・調整)の視点	2
③ 全体像	3
3 連携施策化の視点	4
(1) 滋賀の未来成長につながる	4
① 産業 ② 交通・物流 ③ 観光	
(2) 広域課題の効果的な解決を図る	8
① 危機管理 ② 医療 ③ 環境保全	

1 「広域連携推進の指針」について

(1) 「広域連携推進の指針」とは

「広域連携推進の指針」は、中部・北陸圏域において、基本構想の未来戦略で描く、「不安なく楽しく暮らせる滋賀」、「人と自然がつながる美しい滋賀」、「たくましく活力に満ちた滋賀」、「安全・安心な滋賀」の4つの姿の実現につなげるため、県域を越えて広域で取り組む地域間連携の推進の方向性についてまとめたものです。

(2) 「広域連携推進の指針」の期間

滋賀県基本構想の計画期間である、平成26年度までとします。

(3) 具体的な取組の推進

本指針に掲げる広域連携推進の方向性や視点に沿って、関係市町とも連携しながら、近隣府県等との具体的な連携施策を検討し、取組を進めます。

2 指 針（基本的な考え方）

（1）滋賀の広域連携

〔本県の立地特性〕

国土軸となる幹線等が縦貫することとあわせ、近畿、中部、北陸の各圏域の結節点に位置するという地理的な特性を有し、近隣府県との歴史的・文化的、経済的なつながりが深い。

〔県基本構想の推進〕

「住み心地日本一の滋賀」を目指す基本構想「未来を拓く8つの扉」の未来戦略に掲げる、「不安なく楽しく暮らせる滋賀」、「人と自然がつながる美しい滋賀」、「たくましく活力に満ちた滋賀」、「安全・安心な滋賀」の姿や社会・経済成長の実現に向けた取組が重要。

〔滋賀県における連携への取組の現状〕

【近 畿 圏】 関西広域連合が行う、防災や医療、観光、産業、環境保全などの事業を推進するとともに、近畿ブロック知事会等に参加している。

【中部・北陸圏】 中部圏知事会のほか、「日本まんなか共和国」（滋賀・福井・三重・岐阜の4県）等で連携し、様々な分野で共同取組を進めている。

〔課題〕

- 国が選択と集中による成長を指向するなかにあつて、近畿圏だけではなく、中部・北陸圏においても存在感を高め、社会・経済成長を実現する必要がある。
- 通勤や通学やレジャー、経済活動など、活動範囲が拡大している、住民や企業の安全・安心を確保し、県域を越える広域的な課題へ対応する必要がある。

（2）広域連携推進の方向性

①中部・北陸圏における連携の推進と重点的に取り組む分野

社会・経済成長（未来成長）を実現し、広域的な課題へ対応するため、近畿圏で関西広域連合の取組を推進することとあわせて、3圏域の結節点という地の利を活かし、中部・北陸圏においては、危機管理や医療、環境、広域交通・物流、観光、産業の各分野を重点に、連携の強化・充実を図る。

②連携施策化(企画・調整)の視点

視点1 未来成長につながる（未来成長拠点の形成）

『広域交通・物流』 広域災害時の対応、地域間交流の活性化や物流機能の強化につながる

『観光』 豊富な観光資源や地の利が活かされたルート設定、発信につながる

『産業』 成長分野への参入促進、競争力強化、需要の創出につながる

視点2 広域課題の効果的な解決を図る

『危機管理』 広域災害に対する、住民（企業）の安全・安心な活動の確保を図る

『医療』 複数機のドクターヘリによる二重・三重のセーフティネットの形成を図る

『環境』 温暖化対策や生態系保全の施策効果の向上を図る

③ 全体像

〔滋賀県基本構想〕

「住み心地日本一の滋賀」の実現

■ 中部・北陸圏において、滋賀県基本構想の未来戦略に掲げる「4つの滋賀の姿」の実現につながる連携を推進する。

基本構想の未来戦略で描く、「不安なく楽しく暮らせる滋賀」、「人と自然がつながる美しい滋賀」、「たくましく活力に満ちた滋賀」、「安全・安心な滋賀」の4つの姿の実現につながる近隣府県等との連携を積極的に推進する。

重点分野

【未来戦略で目指す姿】

(3) たくましく活力に満ちた滋賀

施策化の視点

1. 未来成長につながる

【未来戦略で目指す姿】

- (1) 不安なく楽しく暮らせる滋賀
- (2) 人と自然がつながる美しい滋賀
- (4) 安全・安心な滋賀

施策化の視点

2. 広域課題の効果的な解決を図る

広域交通・物流

○広域災害への対応や地域間交流の活性化につながる広域インフラ整備、地の利を活かした物流機能の充実

産業

○県内企業の成長分野への参入促進、強みを持つ分野での競争力強化、高付加価値化等により、需要の創出や販路拡大

危機管理

○広域災害に対し、住民(企業)が安全・安心に活動できる県土形成

医療

○複数機のドクターヘリによる二重・三重のセーフティネット形成

観光

○豊富な観光資源や地の利が活かされる多彩な観光ルートの設定、情報発信、プロモーションの強化

環境

○温暖化対策や生態系保全の取組の拡大による、施策効果の向上

3 連携施策化の視点

(1) 滋賀の未来成長につながる

〔基本構想が目指す滋賀の姿〕

- たくましく活かに満ちた滋賀

① 産業 ～県内企業の成長につなげる～

モノづくりの国際分業の進展や、グローバル競争の激化、特に中国をはじめとする東アジア地域の製造業競争力の向上など大きな構造変化の中で、県内企業の成長分野への参入推進や、強みを持つ分野の競争力強化、地域産業の高付加価値化等を進めるとともに、以下の視点から、需要の創出や、販路拡大等につながる連携を推進します。

《新たなイノベーション創出環境・機能の強化》

- グリーン、ライフ分野のイノベーション拠点間ネットワークの形成

《中堅・中小企業等の国際競争力の強化》

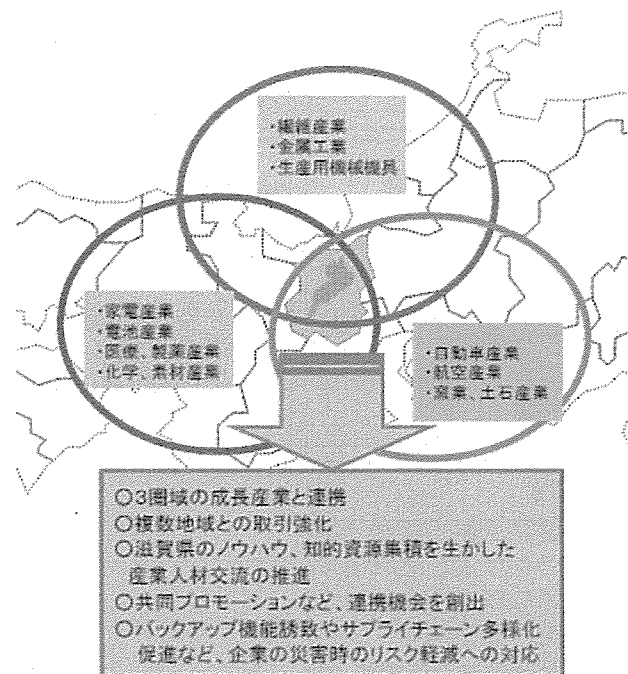
- 人材や技術等のマッチングなどを通じた相互補完により、成長産業への参入促進
- 各府県が有する技術支援機能の活用促進

《中小企業のモノづくり現場力の向上》

- 独自技術や新商品などの認定を通じたモノづくり技術の向上と社会的認知を高めることによる販路拡大
- 国内外の企業との情報や人材交流等を促し、モノづくり技術を向上

《地域産業の活性化》

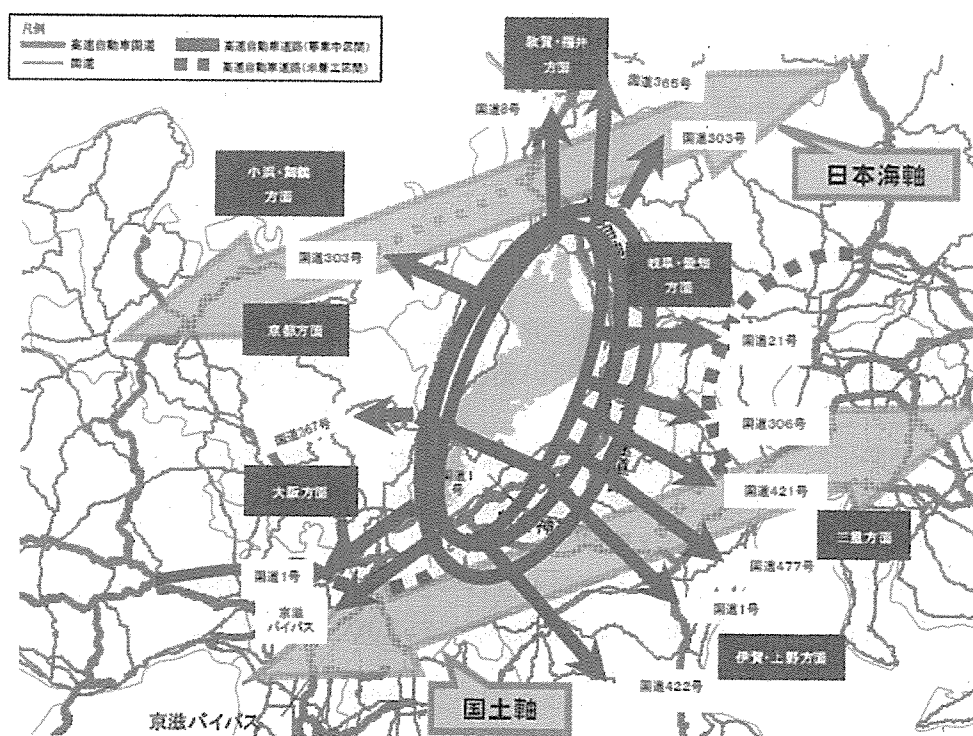
- 農商工連携等、産業分類を越えた企業間連携の促進および付加価値の創造
- 幅広い情報発信による、地域の産業の認知向上



《道路インフラ整備》

国土軸と北陸方面とのクロスポイントであることや、関西から東海までの広域経済圏の中間に位置するという地理的特性を活かし、以下の視点を軸とした地域間交通（道路）の整備促進に関し、各圏域において効果的な連携を図ります。

- 大規模災害時のリダンダンシー（機能代替）確保のための国土軸の複数ルート化
- 緊急事態に対応するための、県際道路の整備促進
- 広域観光ルートの形成につながる公共交通や道路ネットワークの整備
- 地域文化の交流等を通じた地域振興を図るための広域ネットワークの整備

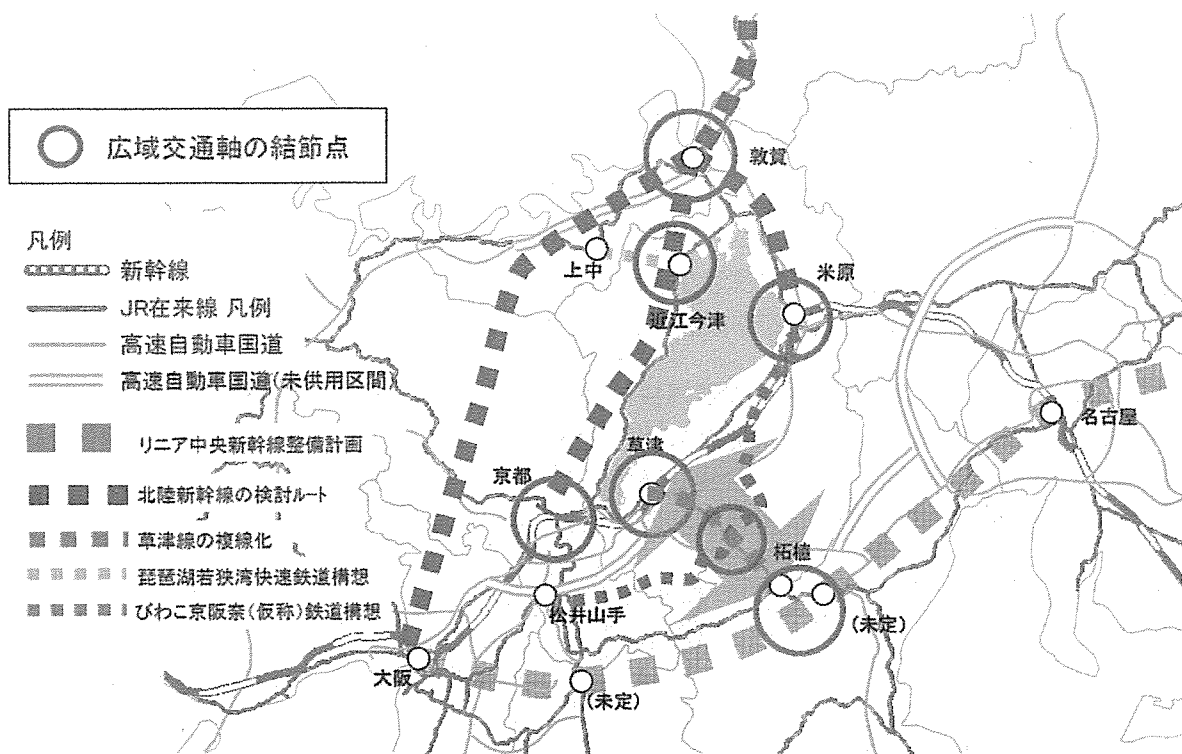


《鉄道インフラ整備》

首都圏と関西圏を日本海側で結ぶ北陸新幹線や、新たな人流の動脈となるリニア中央新幹線は、国土構造上、リダンダンシー（機能代替）強化の観点から重要な交通インフラですが、これまでの経緯もふまえ、以下の視点から対応します。

また、地域の実情に応じた公共交通の整備促進のため、引き続き近隣府県と連携します。

- 北陸新幹線に関して、本県の地理的優位性を最大限に生かし、高める視点を基本とし、「滋賀交通ビジョン」を策定する中や、関西広域連合で議論を深め、並行在来線や建設費の地元負担等の諸課題について関西全体で協議・調整・解決を図る
 - また、北陸新幹線敦賀開業後の敦賀～名古屋間の旅客利便性の確保について、中部圏の関係県と議論する
- リニア中央新幹線開通後の姿については、「滋賀交通ビジョン」を策定するなかで議論を深め、近隣府県等との連携について検討する



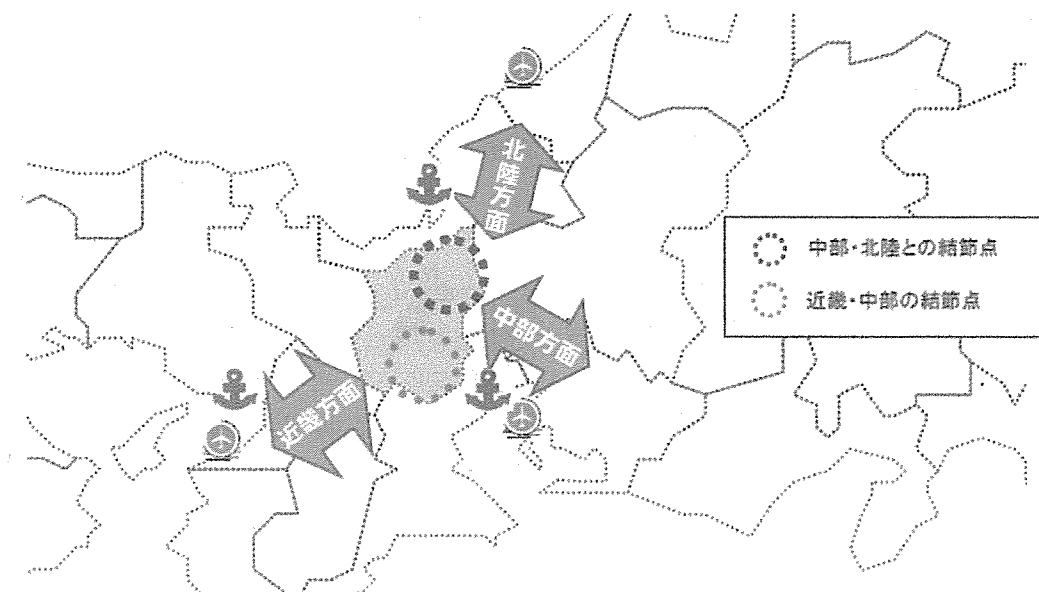
《次世代物流ネットワークの構築》

世界の物流は東アジア中心にシフトしつつあり、アジアや国内の他地域との競争が激化し、円高等による県内産業への影響が大きくなっていることから、県内企業の空洞化対策や、活動基盤の強化はより重要になっています。

滋賀県は、関西から東海にかかる広域的な経済圏の中間に位置し、港湾や空港の使い分けの利便性が向上していることなどを背景に、工場の立地件数が概ね全国的な立地件数の伸びを上回って推移し、貨物の輸出入も増加しています。

今後、物流にかかる時間や費用などのコスト軽減、グリーン物流の促進等が課題になると考えられます。これらを念頭に、以下の視点から、近隣府県との連携に取り組みます。

- 近隣港湾や空港の戦略的な活用が可能な物流ネットワークの形成
- モーダルシフトなどの環境に配慮した物流機能・ネットワークの形成

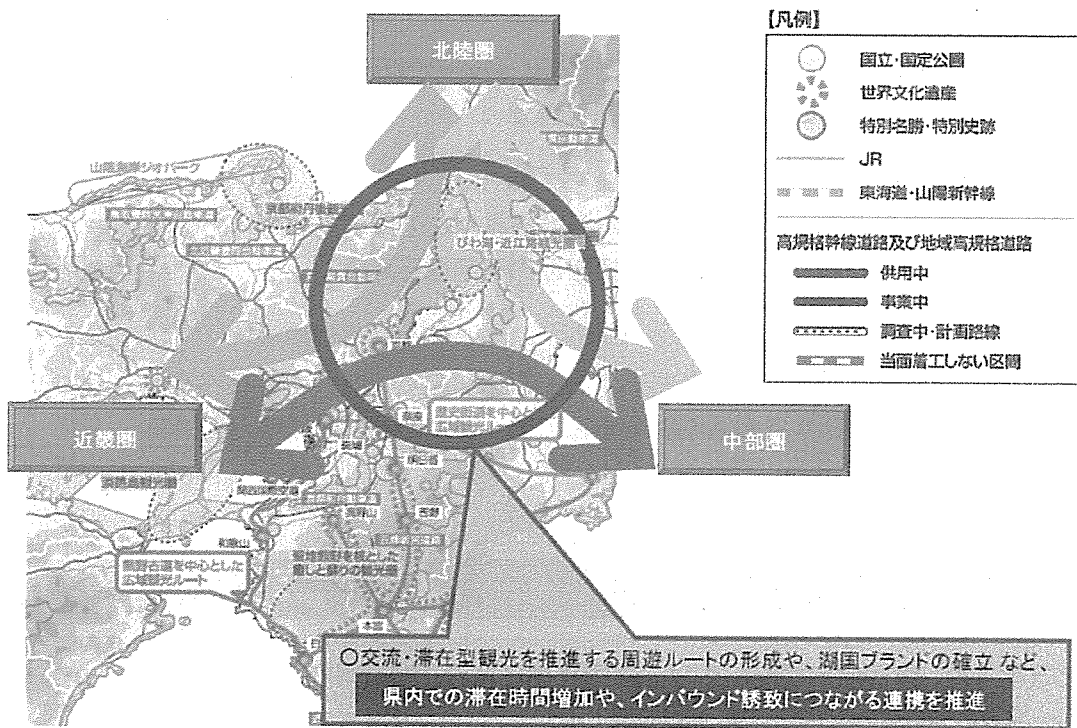


③観光 ～誘客を通じた地域の振興を図る～

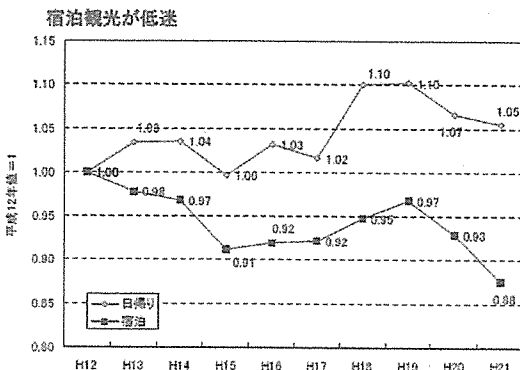
中部・北陸圏では、観光誘客の推進について連絡会が設置されるとともに、近畿圏への回遊コースの開発などが提唱されつつあり、関西と中部・北陸圏を結ぶ観光ルートにおいて、滋賀県のこういった素材をどう活かし、滞在につなげていくかといった観点からの取組も重要になってきています。

このため、水環境、自然、歴史・文化、古都、聖地、産業、体験等の様々な観光資源を有し、主要な交通網のクロスポイントにあるという優位性を活かし、近隣府県の観光資源や、効果的なコンテンツ等との連携の充実も図り、以下の視点に立った取組を進めます。

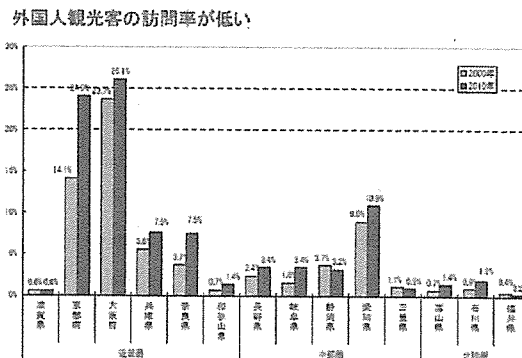
- 歴史的資産を活かした観光ルートの形成強化
- 大河ドラマ「江」の海外放送も踏まえ、今までの素材やコンテンツ等との連携も活かした観光ルートの形成
- 公共交通や道路ネットワークの整備を活かした広域観光ルートの形成
- 海外からの来訪客の底上げを図るための情報発信やプロモーションの強化
- 体験等をキーワードに、教育旅行やインセンティブツアー誘致に向けた情報発信強化



(資料)「近畿圏広域地方計画(概要版)第二版」パンフレットより抜粋



(資料)滋賀県商工観光労働部観光交流局「滋賀県観光入込客統計調査」



(資料)JNTO「訪日外客訪問地調査」

(2) 広域課題の効果的な解決を図る

〔基本構想が目指す滋賀の姿〕

- 不安なく楽しく暮らせる滋賀
- 人と自然がつながる美しい滋賀
- 安全・安心な滋賀

①危機管理 ～住民活動を安全・安心に支えるために～

東日本大震災の経験もふまえ、原子力災害や地震災害、新型インフルエンザ等の感染症対策など、様々な危機事案に対し、住民や企業が、安全・安心に活動できる県土であるため、以下の視点を軸に、各圏域における連携を進めていきます。

〈原子力災害対策〉

- 原子力発電所が立地する福井県の隣接県として、避難の調整やモニタリング、情報収集体制の構築等を柱とする、広域的な防災体制を構築

〈地震・災害対策〉

- 東日本大震災や近年の風水害を踏まえ、府県域を越えた広域災害対応への県民ニーズがより高まっていることから、広域支援・受援などの実効性を高める

〈感染症対策〉

- 早期の情報共有体制を構築するとともに、防疫措置の連携、協力や、住民へのメッセージ、国への要望、風評被害対策や社会活動制限等を実施する際の調整の仕組みを構築

②医療 ～安心の医療体制を築くために～

平成23年4月、大阪府ドクターヘリの共同利用により、滋賀県内でのドクターヘリの運航を開始し、救急医療提供体制の充実を図りました。

平成24年3月に関西広域連合において策定された関西広域救急医療連携計画に基づき、広域医療体制の更なる充実に向け、以下の視点により取り組んでいきます。

- ドクターヘリを活用した広域医療救急医療体制の充実
関西広域連合における、将来の適正な配置・運航および、近隣府県との二重三重のセーフティネット構築
- 災害時における広域医療体制の整備・充実
関西広域連合の広域防災局と連携し、管内ドクターヘリの運航体制を含めた医療支援体制、受援体制の構築

③環境 ～環境先進地域のトップランナーであるために～

滋賀県は、関西広域連合の「広域環境保全局」を担当し、「温暖化対策」と「生態系保全」を柱として、環境先進地域“関西”を目指しています。

中部・北陸圏では、「中部圏環境宣言（H21.10）」が採択され、「地球温暖化防止対策」や「生物多様性の確保、豊かで美しい自然環境の保全」を掲げています。

こうした両圏域における低炭素社会づくりおよび生態系保全に向けた取組の展開を受け、3圏域の結節点にあるという特性を活かし、以下の視点から、連携の強化・充実を図っていきます。

《温暖化対策》

- 低炭素社会の実現という世界的、広域的な課題に対して、県として率先して取組を進めるため、関西広域連合で推進している温室効果ガス削減のための広域取組等について、中部圏においても連携を一層拡大していく

《鳥獣害対策》

- カワウ対策については、関西広域連合で進めている取組の成果や、「中部近畿カワウ広域協議会」の枠組を活かし、県の適正な管理につながる中部圏の対策を推進していくこと。
- 府県境を跨いで生息する野生鳥獣については、課題を共有し、解決に向けた取組を推進していく

中部圏・北陸圏連携プロジェクト

広域行政対策特別委員会資料3-2
平成26年(2014年)3月17日
総合政策部企画調整課

□ 実施済 実施中 □ 実施予定 調整中

取組事項		H24	H26年度末
1 産業	びわ湖環境ビジネスメッセへのまんなか3県からの出展	各県からの出展	H26.2 名古屋市で出展者説明会開催 中部圏への積極的な情報提供の実施
	中部圏ブランド食材の販売促進	(中部圏知事会) ・中部圏ブランド食材の販売促進に向けたWG設置	共同取組を検討
2 広域交通・物流	新名神高速道路の全線早期整備促進	新名神高速道路(大津~城陽、八幡~高槻間)の早期全線整備の共同要望実施	
	広域交通体系についての研究	交通ビジョンの策定、広域交通体系に関する対応 etc 中部圏の情報収集 (中部圏知事会) ・新たな高速鉄道の活用研究を提案	H25.12 交通ビジョン 国や事業者への提言・要請
	物流機能充実への共同取組	貨物流動等のデータ整理、物流事業者等アンケート	国際貨物の集約輸送を可能とする拠点整備にかかる研究 ・研究報告 ・連携施策検討
3 観光	外国人誘客に向けた連携の強化	☆昇龍道プロジェクト立ち上げ・参加 ・VJ地方連携事業(プロモーション活動等の推進) ・訪日教育旅行PRIにおける連携 ・招請旅行(ファミリー)等での連携	H25.4 「昇龍道春夏秋冬百選」発表 昇龍道ハイレベルミッション(H26秋) (トッププロモーション)
	観光誘客テーマの研究	(日本まんなか共和国) ・4県知事合意	歴史観光資源をつなぐ、具体的取組を研究・実施 H25.7 「まんなかカメラ」リリース(H25.12更新)
	共通素材を活かした隣接県との連携	○共通素材を活かした連携の検討・実施	H25.11 滋賀・三重観光フォーラム(三重) H25.10 中山道ワーク連携(岐阜) H26.2~ 濃江八景との連携(静岡)
	官民連携による観光情報等の発信	○「感動十景(JTBプロモーション9万部発行)」にかかる観光情報等の提供・配布 ・春、夏、秋、冬の各号の編集にかかる、県内各地の観光情報や写真、記事の提供 ・ココール認定商品の発信(感動お取り寄せ H25夏号より)	
4 危機管理	原子力災害への広域的対応	福井県、京都府、滋賀県三県原子力担当課長会議による原子力災害への広域的対応を検討(年3~4回程度)	地域防災計画策定 広域避難計画 広域的課題の検討
	大規模災害時の広域応援・受援体制の構築・実効性の確保	広域応援、受援など具体的な連携の仕組み等検討 (中部圏知事会) ・連携方策について	広域応援、受援等の仕組み構築 合同訓練の実施
	家畜防疫	早期通報体制の維持、人材や資材の応援体制等の強化 防疫演習の相互参画	
5 医療	ドクターヘリの効果的な共同運航に向けた協議	岐阜県、三重県ドクターヘリ運航状況把握、情報交換 H25.11 関西広域連合「京滋地域ドクターヘリ」の本県への配備決定	重層的なセーフティネット構築に向け、三重県・岐阜県と情報交換や連携方策を検討
6 環境	電気自動車の普及推進	充電マップ・通信ネットワークの共有化などの取組について、中部・北陸圏に連携を働きかけ	
	エコオフィス運動等の展開	サマーエコスタイルCPポスターのデザイン統一などの取組について、中部・北陸圏と連携中	
	鈴鹿国定公園の生態系保全	公園の現状を情報共有、植生保護や二ホンジカ捕獲等の対策検討	情報共有と対策を協議
	伊吹山の環境保全	お花畑の維持・復元や利用者への受益者負担等を協議、対応検討	H26.5~ 入山料徴収試行
	鳥獣害対策(カワウ・クマ・シカ、サル、イノシシ)への共同取組	【カワウ】「関西地域カワウの生態動向調査および広域保護管理計画」の策定	愛知県、三重県等に共同取組を働きかけ
	【クマ】近畿北部個体群(京都府・福井県・滋賀県)について共同で保護管理指針を作成	共同保護管理の実施	
	【シカ・サル・イノシシ】各県モニタリング結果、被害対策の状況について情報共有	広域的な調査、効果的な被害防除・捕獲方法を検討	

地の利を活かした広域行政推進事業【予算額：4,589 千円】

近畿・中部・北陸の3圏域の結節点として発展してきた滋賀

- ・人・モノ・情報の大動脈が交差（新幹線、名神高速道路、新名神高速道路、国道1号線等の国土軸）
- ・日本一のものづくり県（第2次産業の割合が高い内陸工業県として発展）
- ・一人当たり県民所得は全国2位
- ・日本有数の人口増加県（圏域ごとに異なる人口増減）
- ・知的基盤の集積（大学や研究機関の集積、奥深い歴史に培われた文化的風土）

○近畿圏

【関西広域連合】（近畿2府5県4政令市）

- ・大規模災害を想定した広域防災
- ・海外誘客プロモーション
- ・ドクターヘリの運航
- ・再生可能エネルギー導入促進 など

【近畿ブロック知事会】（近畿2府8県）

- ・国への政策提言 など

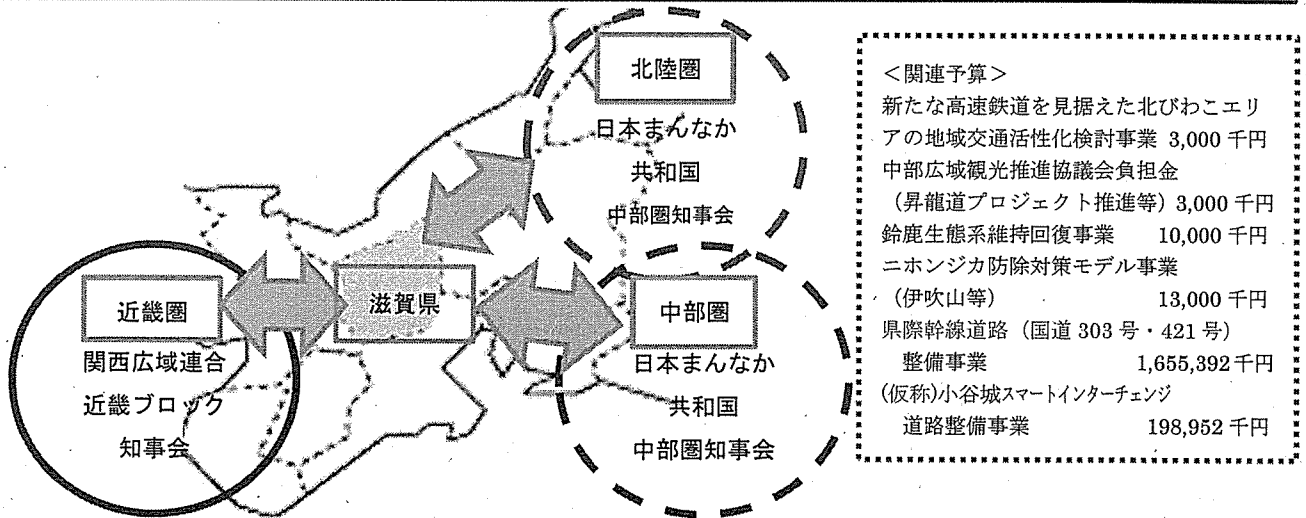
○中部圏・北陸圏

【日本まんなか共和国】（滋賀、福井、岐阜、三重）

- ・観光地でご当地キャラと撮影ができるアプリ配信
- ・県境路上検査（不法投棄対策）の共同実施
- ・口蹄疫等防疫演習の相互参画 など

【中部圏知事会】（中部・北陸9県1市）

- ・国への政策提言
- ・災害時の相互応援体制の構築 など



滋賀を取り巻く広域的な社会情勢変化

- 北陸新幹線やリニア中央新幹線など新たな国土軸の変化
- 大震災を契機とした国土強化やエネルギー政策の動き
- 東アジアの経済成長に伴う日本海側ゲートウェイへの注目
- 県域を越えた鳥獣被害の拡大や自然生態系の危機

平成 26 年度の取組「環境の変化を活かし、滋賀の成長を促す中長期戦略の検討」

（検討プロジェクト例）

- 新幹線駅を起点とした広域観光ルートの設定
- 再生可能エネルギーの導入促進やエネルギーインフラの検討
- 鉄道や港湾を活かした物流拠点の形成
- 隣県との獣害対策と山の再生

成長機会の取り込み

中部圏・北陸圏の広域成長
 滋賀県域の成長
 県内各圏域の振興

